



われら専修人
[スポーツ編]

File No.94

世界の村田互が、帰ってきた。昨年来のアドバイザーから、この春、いよいよ監督に就任。「ディシプリン(規律)」をテーマに掲げ、チームの全面的な「意識改革」を目指す。村田流ラグビーとは、どのようなものか? どのような将来像を描いているのか? 就任早々の村田互新監督に、お聞きした。

昨年からラグビー部のアドバイザーをやらせていただきましたが、第一印象は「あっ、やはり2部のチームだな」。雰囲気は2部のチームなのです。2部に9年いれば、それが当たり前になっているように思いました。たとえば、「集合!」と号令をかけても、すぐ集まらず、たらたら歩いてきたり……。それを見て逆に、やりがいを感じました。やらなければいけないと思ったのは、「意識改革」だけです。そのため

りある結果だと思っています。「ディシプリン」を守ることが、部員全員、もっとできるようになれば、絶対、強くなります。

さらには、ディフェンスができる、体を張れる選手づくりです。得点してもディフェンスしないと、取られ負けしてしまいます。僕もアタック中心の選手でしたが、まずディフェンスを固めないとな上のチームには勝てませんし、世界には勝てません。

ラグビー部、始動。村田互新監督

源平監督へ

「『サッカー部は、凄いことをやった!』。口にするだけでも、いま鳥肌が立っています。僕も最優秀選手に選ばれた庄司悦大君(平24・経済、FC町田ゼルビア入団)のような、優れた選手たちを育てていきたいと思っています」



には「ディシプリン(規律)」。4月、ディシプリン。5月、ディシプリン。6月、ディシプリンと、部員を月に一度、集めては規律を正すことを徹底させました。結局、規律を守る、つまりルールを守ることが、ラグビーでは一番大切だからです。早寝早起きなど生活の基本的なことは、ラグビー以外でも大切です。当たり前のことが、きちんとできる。これらは、選手たちが社会人になっても、「専大ラグビー部出身」ということで評価されたら嬉しく思います。

僕がアドバイザーになった昨年は3位でしたが、2位、1位に近づいた実

短期的な課題として、2年以内に1部に昇格する。中期的な目標として、5年以内にリーグ戦で優勝争いをする。長期的な夢として、7年以内に日本一争いをする。いま、2部にいるチームを7年で日本一の優勝争いまでもっていく。これは、僕がやらなければいけない、と思っています。

新年早々、サッカー部がインカレで初優勝しました。専大スポーツのラグビー部、野球部、スケート部なども、何か変化が起きているような気がします。一気に盛り上げよう! この上昇気流に乗っていくぞ! そんな決意で、いっぱいです。(談)

むらた わたる●

1990(平成2)年、文学部人文学科卒業。1968年生まれ。福岡県出身。ポジションはスクラムハーフ。

1990年~1999年 東芝府中

1999年~2001年 アピロン・バイヨンヌ(フランス)

2001年~2008年 ヤマハ発動機ジュビロ

2008年~ 7人制ラグビー日本代表監督

2011年 専修大学ラグビー部アドバイザー

2012年4月 同監督就任